

CLOSE UP!

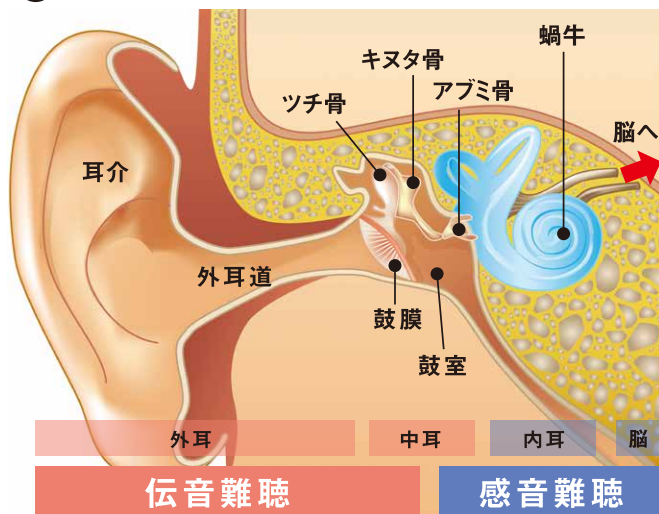


人工中耳手術 埋め込み型骨導補聴器

人工中耳の適用

内耳には問題がなく、外耳道や中耳の病気による伝音難聴で、手術や補聴器でも聴力の改善が十分でない方が適用となります。この手術では、耳の後ろの骨にチタン製の端子を埋め込み、サウンドプロセッサーを取り付けることにより、音を増幅して骨から内耳に音を伝えます。年齢は18歳以上、先天性の両側外耳道閉鎖の方は15歳以上が適用となります。

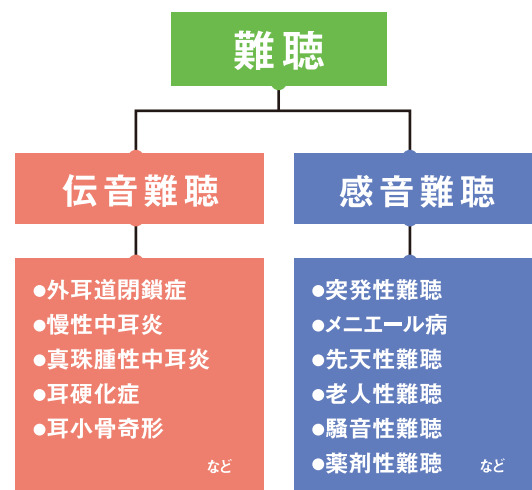
図1 伝音難聴と感音難聴



人工中耳の手術

手術は2～3時間、入院期間は1週間程度です。手術後3カ月してチタン製の端子が骨に結合してからサウンドプロセッサーを取り付けます。また、チタン製の端子の周りの皮膚を清潔に保つためのケアを、自分で行う必要があります。

難聴の分類



中耳炎の手術を受けても聴力が改善しなかったり、補聴器でもうまく聞き取ることができない伝音難聴の方に適用となる新しい治療法です。世界では以前から導入されている治療法ですが、日本では平成25年に保険適用になり、当院の耳鼻咽喉科・頭頸部外科でも手術を行っています。

■説明は、
徳島大学病院
耳鼻咽喉科・頭頸部外科
武田 憲昭 (たけだ のりあき) 科長

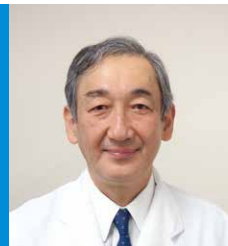
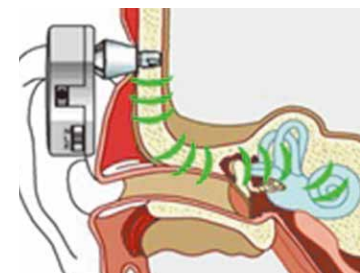


図2 チタン製端子にサウンドプロセッサーを装着 (日本コクレア社提供)



図3 骨から内耳に音を伝える骨伝導 (日本コクレア社提供)



手術の前に、この手術を受けた後の聞こえ方を試聴することができます。詳しくは担当医師までご相談ください。

人工内耳について

一方、感音難聴のために補聴器の効果がほとんどない高度な難聴の方には人工内耳の手術が効果的で、当院でも手術を行っています。言葉を覚えてから聞こえなくなった大人の人工内耳の聞こえは、個人差がありますが良好で、ほとんどの人が聴覚を取り戻して周りの人との会話が可能となっています。しかし、正常な聴力にまで回復するわけではありません。難聴で日常生活にお困りの方は、もう年だからとあきらめず、気軽にご相談ください。